



農薬影響対策費

平成29年度予算(案)
97百万円(111百万円)

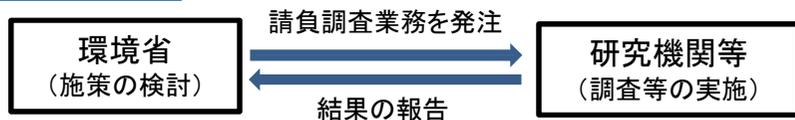
背景・目的

- ・欧米ではミツバチの減少が問題化し、その原因としてネオニコチノイド系農薬が疑われ、一部で規制を実施。家畜ミツバチに比べ、日本ミツバチなど野生花粉媒介昆虫については、農薬の影響に関する情報がほとんどなく、広域にわたる統一的な調査が急務。
- ・水産動植物の被害防止に係る農薬登録保留基準については、一部の試験生物種を対象とした急性毒性試験を基に設定。新たな評価手法を開発するとともに水生植物を含めた水域生態系を考慮したリスク評価を行う必要。
- ・無人ヘリコプターによる農薬散布の拡大に伴い、大気経路による農薬の飛散リスクの評価・管理手法を確立する必要。

事業概要

- ・ネオニコチノイド系農薬等が花粉媒介昆虫(野生ハチ)に与える影響調査等を実施。(新規)
- ・水生植物と水産動植物の関係性及び農薬の水生植物への影響について実態調査等を実施。(新規)
- ・農薬の水域生態系リスクの新たな評価手法を開発。
- ・無人ヘリコプター散布農薬について、農薬ごとの毒性評価と暴露量予測を行い、リスク評価、リスク管理手法を確立。

事業スキーム



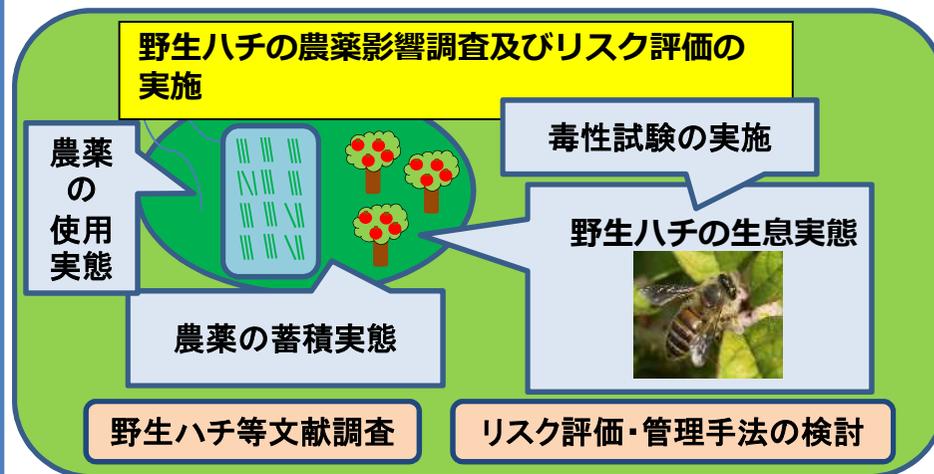
期待される効果

生態系保全及び農薬の大気経路による暴露対策のための適切な農薬のリスク評価・管理を実施。

事業目的・概要等

イメージ

農薬の花粉媒介昆虫に対する影響調査 (新規)



農薬の水生植物に対する影響調査 (新規)

